

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501438
法人名	有限会社 芳光
事業所名	グループホーム おくじま
所在地	愛媛県新居浜市北新町12番52号
自己評価作成日	平成23年6月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年7月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域とのつながりを大切にし、入居者さんがゆったり笑顔で過ごせるように努めている。
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>前回の外部評価を受けて「利用者の活動意欲がわく工夫」について、職員で意見やアイデアを出し合い「ベランダで花や野菜を作る」「縫い物のお好きな方と雑巾やコースターを作る」「雑誌を置く」「体操のDVDを用意する」等、利用者が活動するきっかけが作れるような環境作りに取り組まれた。又、研修を受けた職員の提案でドールセラピーを採り入れられたり、さらなる個別支援に向けてセンター方式を採り入れておられる。</p> <p>歌がお好きな利用者で、現在、歌をしっかりと歌うことは難しい方であっても、ご本人の「うれしそう」「楽しそう」というような表情をキャッチして、歌を楽しむことが続けられるよう支援されている。</p> <p>「帰りたい」と落ち着かない状態の利用者もおられたが、得意な縫物を支援を採り入れ、コースターや雑巾作りをすすめたところ、徐々に落ち着いて過ごす時間が増えてきたという事例もある。最近では他の利用者のズボンのすそを縫ってさし上げ、喜ばれたようだ。又、支援内容にベランダで育てているお花や野菜の水やりや収穫を採り入れて、利用者個々が楽しく活動できるよう取り組みをすすめておられる。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム おくじま

(ユニット名) 雅

記入者(管理者)  
氏名 山内 キシエ

評価完了日 平成23年6月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 介護理念が目につきやすく、職員が意識出来るような場所に掲示し、常に入居者を支援できるよう心がけている。 (外部評価) 「私達は地域の中で信頼され、ふれあいのできる施設を目指します」という事業所理念を、ユニットの間にある事務所前に掲示しておられる。又、事業所理念の他に、1年毎の目標を職員全員で決めておられ、今年度は「一人ひとりにあったケアをしましょう」「チームワークを持ってケアしましょう」と目標に掲げて取り組んでおられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 地域の自治会に加入し、老人会や行事等に積極的に参加し交流している。また、事業所の行事には、地域の役員やボランティアの人達に参加して頂き、一緒に楽しまれている。 (外部評価) 利用者の中には自治会に加入している方もおられ、自治会館で行われている月1度のカラオケ等には、2～3人の利用者が参加されている。又、小・中学校の子ども達から暑中見舞いのはがきが自分宛に届いたことや、地域の保育園との交流では食事会やもちつき大会に参加され、後日その際の写真を送って来てくださったりして、利用者は地域の方達との交流をととても喜ばれている。地域の老人会のお花見・忘年会に参加される利用者もおられ、地域の方達と交流する機会がある。毎年恒例となっている事業所主催の夏祭りは、地域やご家族合わせて100人くらいの参加者があるが、今年は地域行事の日程等のこともあって、秋に実施する予定になっていた。地域のボランティアの方からは「利用者が楽しめることをしてあげたい」と言っていたり、「芋たき会」を計画されているようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、認知症についてのテーマを取り入れ、地域の人達にも、支援のあり方、介護についての意見を聞くことで、事業所の評価につなげられている。また、地元の看護学生の実習も受け入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月に一度、入居者の状況・ケア・感染対策・避難訓練・地域活動等を報告している。 委員の方々の意見も参考にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者、ご家族、地域の方、市の担当者等に参加をいただき、2ヶ月に1回、会議を開催しておられる。事業所では、今年度会議で「事業所の実情をさらに知っていただく」ことに取り組み、利用者の様子やケアの取り組み等を詳しく報告することに努められた。新しく取り組んだドールセラピーやセンター方式を採用入れたアセスメントについても報告をされた。ターミナルについて意見交換を行った際には、参加者からお知り合い方の状態の事例について質問等も出された。</p>	<p>管理者は、会議時参加者に「事業所にもっと関心を持ってもらい、サービスについて質問等をいただきたい」と考えてられる。事業所ではこの一年間利用者の入退居もあり「新しい利用者のご家族にも会議にお誘いして、ホームのことをさらに知ってもらいたい」と考えておられる。参加者がホームについて知りたいこと等についても聞き取りながら、会議のすめ方等を工夫されてみてはどうだろうか。ともに勉強されたり、ともに活動したりしながら、事業所のサービスについて、より具体的な要望や意見をいただけるようすすめていかれてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市よりあらゆる情報を随時届けてくださる。また、光科学スモッグ情報も確実に得られています。月一度、介護相談員の訪問もあり、多彩なアドバイスを頂いています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、市の担当者の方から介護保険について説明をしていただいたり、市内のグループホームの新設情報等を教えていただいている。「光化学スモッグ情報」は、暑い季節に年間3回くらい発令されるが、必ず連絡をくださっており、利用者の外出等の参考にされている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日中は入口の施錠はしない。 言動や態度に気をつけ、職員間で声を掛け合い、見守りを重視するケアを心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、事業所内の勉強会やミーティング時に身体拘束について勉強をされている。ユニットの入り口には鈴が付けてあり、人が出入りすると鳴りようになっている。ユニット間で行き来する利用者もいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			虐待は入居者の尊厳を精神的・肉体的に傷つける行為であるため、勉強会やミーティングで話合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			全職員が理解できるよう学習しているが、活用の経験はない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約時、入居者のご家族立会いのもと、条文の各項にそって説明し、理解が得られたか確認している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			玄関に意見箱を置いているが、あまり利用されていない。面会時に、入居者の様子などを話して信頼関係を築き、家族からの要望を反映できるように努めている。	
			(外部評価)	
			ご家族が毎日来られる方や一日おきに來られる方等、来訪は多くあり、ご家族の来訪時には、利用者の最近の様子をお伝えしたり、ご家族からのケア等への要望を聞くようにされている。ご家族・利用者からは「今のままがいい」という希望が多いようだ。職員の名前と顔写真が掲示されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回運営会議を開き、職員の意見を聞いている。また、代表者は年一回(春)、職員と個別面談をし、職員の意見を聞いている。	
			(外部評価) 前回の外部評価を受けて「利用者の活動意欲がわく工夫」について、職員で意見やアイデアを出し合い「ベランダで花や野菜を作る」「縫い物のお好きな方と雑巾やコースターを作る」「雑誌を置く」「体操のDVDを用意する」等、利用者が活動するきっかけが作れるような環境作りに取り組まれた。又、研修を受けた職員の提案でドールセラピーを採り入れられたり、さらなる個別支援に向けてセンター方式を採り入れておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力や勤務状況の把握に努め、希望する研修にも参加できるよう配慮している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて研修に参加している。研修後はミーティング時に報告し、情報を共有している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者会議、ケアマネの地域密着型部会に参加し交流を図っている。また、グループホーム連絡協議会に加入し、県内の研修にも参加している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族やケアマネからの情報と、本人の話を傾聴し、不安や要望を受け止め、信頼が得られるよう努める。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>事業所見学に来所された時、家族を交えて、本人の意向や要望を重視し、不安を取り除けるよう、聞き取りを行っている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者の在宅での生活を尊重し、出来る工夫をさせて頂き馴染んでもらえるよう努めている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者は、長年生きてこられた大先輩であるので、介護するのではなく、一緒に暮らしていくうえで、お手伝いをさせて頂くような関係を築いていこうと努めている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族とも面会の折りに話をし、心配なことがないように、お互いに話やすい雰囲気をつくるようにしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自宅のご近所の方や遠方の兄弟のかたなどが訪問してくださっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前、中学校の先生をされていた利用者は、部活動の教え子が訪ねて来てくれ、居室で昔の写真を見たりおしゃべりして楽しい時間を過ごされおき、職員はお茶をお出しする等、ゆっくりしていただけるように気を配っておられる。以前、句会に出席しておられた方は、句会仲間が訪ねて来てくれて、ひと時を過ごされた。歌がお好きな利用者で、現在、歌をしっかりと歌うことは難しい方であっても、ご本人の「うれしそう」「楽しそう」というような表情をキャッチして、歌を楽しむことが続けられるよう支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の人柄なども把握し、食事の時の席や、外出時の車内での席に気配りしている。 また、手伝いやレクリエーションを一緒にし良い関係作りを心がけている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入居中の生活の様子等を詳しく情報提供している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者の思いを最優先とし、家族の意向も大切に、その人らしい生活を送って頂けるよう努めている。 (外部評価) 今年の2月からセンター方式の様式を採り入れてアセスメントに取り組んでおられるところである。利用者一人ひとりに担当職員を配置してすすめておられ、担当利用者の似顔絵を描いたり、ターミナルへの思いを探ったりして、それぞれのこれまでのことや暮らし方の希望等の把握に努めておられる。意思表示が難しい利用者には、普段の表情やしぐさからも思いを汲み取るようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの暮らしについては、本人・ご家族より情報を得るようにしている。 面会時にも、今までの暮らしぶりについて話を聴くようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の暮らしを共にすることで、生活リズムや出来る力、解る力を発見しチームとして把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 入居者ごとに担当スタッフを決め、カンファレンスを行い、モニタリングをしている。入居者主体の目標を立て、個別性のあるケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価) 担当職員が介護計画の案を作り、カンファレンスを行い、計画作成担当者がまとめて介護計画を作成しておられる。利用者の暮らしの写真や手紙をご家族に送付する際、今年度から、ご家族の意見や要望さらに多く出していただけるよう返信用封筒を同封されており、ご家族からはお礼や感謝の言葉もいただき、又、「できるだけ外に連れ出してほしい」等、より具体的な要望が出されるようになった。「帰りたい」と落ち着いた状態の利用者もおられたが、得意な縫物を支援を採り入れ、コースターや雑巾作りをすすめたところ、徐々に落ち着いて過ごす時間が増えてきたという事例もある。最近では他の利用者のズボンのすそを縫ってさし上げ、喜ばれたようだ。又、支援内容にベランダで育てているお花や野菜の水やりや収穫を採り入れて、利用者個々が楽しく活動できるよう取り組みをすすめておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に記録し、一日の様子がわかるようにし、職員間で朝夕申し送り、情報の共有に努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) デイサービスの音楽療法や催しに参加させてもらっている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に民生委員さんが参加されており、地域の情報を教えてくださったり、グループホームの活動に協力されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居前からの主治医に受診してもらっている。受診時、日常の様子を情報提供している。また往診してもらっている入居者もいる。	
			(外部評価) 個々のかかりつけ医の受診は、ご家族が付き添うようになっている。協力医療機関の往診を受けている利用者もいる。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師が常勤しており、体調不良時の対応や日々の健康管理を行っている。また、夜間も待機され、その都度対応ができる。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時医療機関に情報提供し、入院中は状態を確認するようにしている。また、退院に向けても医療機関やご家族と連絡を取って情報交換をしている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時にホームの対応について説明している。重度化に向けては早い時期から相談を重ね、意志確認をしている。現在ターミナルケアを行っている。尊厳ある看取りが出来るよう	
			(外部評価) 今年、2名の利用者の方の看取りを支援された。「家には帰らん。ここで最期までおる。」と、ご自分の希望を表された利用者もあり、職員は「どれだけのことができるか」ということを話し合い、協力医療機関と連携して支援された。看護師資格を有する管理者は、24時間いつでも連絡や対応できる体制を作り、職員をサポートされた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急対応のマニュアルを作っており、救急手当などは勉強会で復習している。 夜間帯の救急対応についても周知できている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを作っており、年一回避難訓練も実施している。地域の方々には、運営推進会議で協力をお願いしている。	
			(外部評価) 今年、5月に消防署の協力のもとで利用者を駐車場に避難誘導する訓練を行われた。火災時の避難誘導の仕方や緊急避難経路等は、電話の横に掲示しておられ、自動火災通報は民生委員の方の自宅にも同時に知らせるシステムになっている。10月には、併設のデイサービスや高齢者向け住宅の方々とも合同で、避難訓練を実施する予定になっている。	事業所では、今回の東日本大震災の教訓を受け、懐中電灯を購入する等、災害に備え必要なものの準備を考えておられる。さらに、利用者の状態や職員の体制、又、夜間時や季節等も考慮し、いろいろな場面を想定した訓練を重ね、利用者、職員の安全安心に向けて取り組んでいかれてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を把握・尊重し、プライドを損ねないような声かけや対応、プライバシーも守れるように、職員には常に勉強する機会を作っている。	
			(外部評価) 昼食時、テーブルのお花を見て「この花、きれいね」と繰り返し言われる利用者に、職員はその都度、「そうね、きれいね」と、笑顔で応じておられた。夜間、落ち着かなくなる利用者がおられ「子どもがお好き」なことを踏まえて、人形を使ってのドールセラピーを試みておられた。人形をみるとやさしいお顔になり、心も落ち着かれるようだ。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段から入居者の状態に合わせたケアをしている。入居者が自分の思いを言葉に出来る雰囲気作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一応一日の流れはあるが、入居者一人ひとりのペースを把握し、笑顔でゆったりした過ごし方をしてもらえるように心がけている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) その人にあった髪型や洋服など、好みのものを身につけられるよう支援している。訪問理容院を希望されている方々もいる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居時に嗜好を本人、家族に聞き献立に配慮したりしている。 一緒に準備や片付けを手伝ってもらっている。 (外部評価) 週3回、配食サービスを利用しておられ、下ごしらえされた食材が届くようになっている。汁物は事業所で作っておられる。事業所で食事作りをされる時には、昔からの家庭料理である「野菜の煮物」等を採り入れることを心がけておられる。職員が外部研修で学んだ口腔体操を採り入れて実施しておられ、食事前になると「もう体操ですか？」と、居室から出て来られる利用者もおられる。食事中、職員は「もうちょっと食べておきましょう」と、声をかけたり、食べこぼしをそっと片付ける等サポートされていた。食後下膳されたりお盆を拭いている利用者の様子がみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) バランスのとれた食事を提供している。食事量は毎食個々に確認し記録し、体調に合わせて献立を変更したり、食べやすい工夫をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけをしている。 嫌がる方には、声かけのタイミングを考えたり、職員が変わり声かけしている。義歯の消毒も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた声かけや誘導を心がけてトイレでの排泄ができるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、昼食前・後に「しばらくトイレに行っていないからそろそろ行っておきませんか」等と声をかけてトイレに誘導しておられた。トイレには、「トイレ」と大きく表示して利用者の目に付くようにされている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの排便状況も把握し、飲食物や運動などを考えて取り組んでいる。食物繊維をとるためイーージーファイバーも摂取している。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日午後より入浴できる体制をとっており、その人の体調や要望を聞きながらそれぞれに応じたように支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入浴は午後から支援されおり、利用者個々の希望や体調・状態をみながら支援されている。お風呂を嫌がる利用者には、廊下を歩いてお風呂の前で「汗だけでも流しましょうか？」と誘ってみられたり、気がすすまない利用者には、他の日に変えるなどしてタイミング等をみながら支援されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その人の体調や、今までの生活習慣などを考え状況に応じて休んでもらったりしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)  全職員が把握できるように、薬の内容や作用などを一覧にしている。薬変更時には管理日誌で申し送りをしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)  洗濯たたみ・食器洗い・食事の盛り付け等それぞれの力の応じて役割をもってもらったり、気分転換ができるように支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)  買い物やドライブ、散歩を楽しんでいる。家族が面会時、一緒に散歩に行かれる方もいる。地域の行事にも参加している。  (外部評価)  調査訪問時、近々ご家族と県外にお墓参りに出かける利用者が、ご家族と美容室にカットと毛染めに出かけておられた。又、午後に職員と利用者が手をつないで買い物に出かけて行かれ、おやつを買って帰られ、笑顔で「ただいま」とあいさつをされていた。年に1回、利用者職員が外食に出かけたり、お花見や菖蒲、芍薬の花を見に出かけておられる。事業所周辺を散歩されたり、近くの図書館に出かけることもある。	外出支援については、ご家族とも相談しながら、利用者それぞれに行ってみたいところやなつかしい場所等を探り、出かけてみるような支援もすすめてみてはどうだろうか。地域の資源や力をさらに活用しながら、利用者が外に出かけて楽しめるような機会を増やしていかれてはどうだろうか。又、そのような取り組みをご家族に報告されたり、運営推進会議時に伝えて、意見や感想をお聞きしてみてもいいだろうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)  それぞれの希望や能力に応じて、お金を所持したり、買い物に行ったりして使うことができるよう支援している。家族の希望で預かっている人達もいる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)  その人に応じて、家族に電話したり、手紙やハガキを持ってきて下さっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用スペースは、清潔第一を心がけ、適度な室温や照明に気を付けている。壁には、写真や季節の折り紙等を飾り、花を活けたりして五感を刺激できるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、事務所前や居間には、お花のお好きな職員がご自宅で育てたお花を生けておられた。ベランダには、利用者と職員で世話されたサフィニアやマリーゴールド等の季節の花が咲いていた。又、プランターで育てたトマトも少し色付いているものもあり、利用者は、ベランダを見ながら「お花はここからみたらきれいよ」と窓際のよい場所を教えてくださいました。掃除は職員と利用者で行っておられる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間にはテーブル、ソファー置コーナーがあり、気の合う人がテレビを観たり話んだりしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みの物、思い出の品等を持ってこられ、それぞれ個性のある生活感のある部屋作りになっている。また各部屋にはクローゼットが備え付けられているので、寝具や衣類の収納に便利。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自分の居室を時々間違える利用者の居室の入り口には、折り紙で作った大きなちゅうりっぷを貼り、その下にひらがなで大きく苗字を表示しておられた。ご自宅で使っておられた鏡や腰かけを持って来られている方や、ご家族からのプレゼントの造花を飾っておられる方もみられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>てすりや段差のない環境を作り、安全な対応を行っている。また、部屋など間違えないように工夫したり、その都度声かけや誘導などで不安なく安心して生活できるよう支援している。</p>	